

令和4年度シラバス（福祉）

学番56 新潟県立八海高等学校

教科（科目）	生活支援技術	単位数	4	学年（コース）	2学年（普通科福祉コース）
使用教科書	実教出版『生活支援技術』				
副教材等					

1 学習目標

自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。

2 指導の重点

初めて福祉や介護について本格的に学ぶ生徒であるため、

①介護等に関する体験的な学習を通して総合的な知識と技術を習得することを目標とします。

②介護実践の根拠となる介護に必要な人体の構造や機能、個人の尊厳とプライバシー、高齢者の心理についても理解しようとする態度を育てます。

3 指導計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		実技をする前に 手洗い、服装、感染症予防 褥瘡 ベッドメイキング（望ましい寝具含む）	8	提出物 授業態度
	生活支援の理解		生活に視点を置く 生活支援の考え方	生活理解の必要性 生活とは 生活経営のあり方 生活特性ととらえ方 尊厳とは		
5	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント	移動の介護	ベッドメイキング 目で見えるワーク ボディメカニクス 車いすの基本 高齢者の体	14	中間考査
	生活支援の理解		生活支援の考え方	介護従事者としての価値観 職業倫理 障害者への理解		
6	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		車いすの操作 車いす外出 車いす振り返り 食事介助 入浴介助	14	
	生活支援の理解		生活支援の考え方 他の職種の役割と協働	認知症高齢者への理解 チームアプローチの必要性 利用者中心の協働と実践 介護職との連携・協働を担う他職種の理解		
7	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		シニア体験 シニア体験振り返り	12	期末考査
	生活支援の理解		他の職種の役割と協働	実践での連携・協働場面 インターンシップへの準備 ・施設の概要 ・電話のかけ方 ・事前打合せ説明 ・個人調書の説明 ・誓約書の説明 ・記録の書き方 ・交通手段の説明		
8,9	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		実技テスト（ベッドメイキング） 実技テスト合否発表と振り返り 仰臥位から側臥位	13	
	生活支援に向けたアセスメント 居住環境の整備		生活支援におけるアセスメント 生活支援における居住環境整備の意義・基本理念	麻痺の話 体の部位の名称 ICFとは何か ICFの視点とアセス 居住環境整備の意義・基本理念 バリアフリーとユニバーサルデザイン		

10	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		仰臥位から側臥位 仰臥位から端座位	14	中間考査
	居住環境の整備 移動の介護		生活支援における居住環境整備の意義・基本理念 移動の意義と目的	居住環境整備の目的 居住環境へのICFの視点に基づくアセスメント 自立生活を支える移動・移乗の介護		
11	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		仰臥位から端座位 前開き	13	
	移動の介護 家事の介護 身じたくの介護		移動の意義と目的 家事支援における介護技術 身じたくの意義と目的	移動におけるアセスメント 高齢者や障害者に適した衣類 衣類の衛生管理 人間にとっての身じたくの意義と目的		
12	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		前開き 実技テストについて説明	11	期末考査
	身じたくの介護 生活支援に向けたアセスメント		身じたくの介護と目的 生活支援におけるアセスメント	機能の低下や障害が身じたくに及ぼす影響 身じたくにおけるアセスメント 介護過程 観察・情報収集 コミュニケーション		
1	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		前開き 実技テスト案内、説明 かぶり	12	
	居住環境の整備		安心して快適な生活の場づくり	高齢者の施設環境 ユニットケアの居住環境 施設における居住環境整備の内容		
2	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		実技テスト 実技テスト合否発表と解説	12	学年末考査
	家事の介護		家事の支援の意義と目的	骨の名称 家事とは 家事支援の意義		
3	基本的な介護技術（実技）	教科書 プリント		実技テスト復習	5	
	家事の介護		家事の支援の意義と目的	自立のための家事支援		

4 課題・提出物

計 128 時間 (55分授業)

- ・授業ごとにレポートを課します。
- ・インターンシップ前後に必要な提出物等については、別途指示します。

5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
要介護者の日常生活を支えるために、普段何気なく行ってる日常生活動作に関心を持ち、実践的な介助方法を身に付けている。	様々な介助方法を体験しながら、要介護者ひとり一人にあった介助は何か、よりよい介助方法を考えられるようになる。	日常生活を支援するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	介護技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、意義や根拠を理解している。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、発表の様子、予習復習の取組状況等） ・提出物（提出状況やその内容等） ・定期テスト などから、総合的に評価します。			

6 担当者から一言

授業は「座学」と「実技」とあります。まずは初めて学ぶであろう介護について関心を持って授業に臨んで欲しいと願っています。なお、この指導計画「学習内容（指導内容）」は、夏のインターンシップに行くことを想定した学習内容であり、変更の可能性があります。